



人と環境にやさしいトランジットモデル都市をめざして RACDA

第 226 号 2022/ 8

誰が為の公共交通か？

JR 九州の苦境に想う

■先日、久しぶりに九州へ旅行に行った。筆者は九州が好きである。名高い温泉がたくさんあるし、自然も豊富で料理もお酒も美味しい。西日本でここまで観光資源に恵まれた土地はないのではないと思う。そんな九州の移動で専らお世話になるのが鉄道、特に JR 九州である。JR グループの中でもデザイナーとコラボした列車で異彩を放ち、美しい、かっこいい、移動が楽しくなる空間を提供していた。「ななつぼし」や「つばめ」、「ソニック」など 1 度は誰でも見たり聞いたりしているのではないと思う。コロナ禍で必ずしも移動しなくともモノや経験がある程度手に入れることが出来るようになった今、移動そのものを意義のあるもの・楽しいものにしていかなければならない。そんな考えを先取りしていたのが九州の鉄道である。

■ところが今回の九州旅行で「異変」を感じた。1 つ目が車両整備である。映像やかつての記憶を辿ると、九州の列車はどれもピカピカでメンテナンスが行き届いていた印象がある。デザインが美しいので手間暇もかかるが、お客様へしっかりと提供する商品として入念な準備がなされていたと考える。むしろ美しいデザインがあるからこそ、メンテナンスも完璧にしておこうという気持ちが湧いてくるはずである。ところが、今回の旅行で特急列車や普通列車など様々な列車を利用したが、全くその逆であった。特急列車でもフロントガラスには汚れが目立ち、普通列車も錆や傷みが目立った。賛否両論がある座席撤去車両も利用したが、実際に座席数が少なく車内が寂しく感じる。これは必要以上にサービスダウンではないかと危惧している。なにより、本当に座席を「撤去」しただけで、ボルトの穴埋めも露骨に分かるようになっており見ずばらしい印象を受けた。

■2 つ目は駅の無人化と減便の加速である。もちろん営利企業である限り、儲からない部門にリソースをかけるのは企業として健全な行動ではない。しかし、南行橋駅や東別府駅など比較的都市部に近い駅でも近年は無人駅となっている。また 2022 年秋のダイヤ改正ではさらに減便を加速させており、利用者離れが懸念される。こうした取り組みは経営判断としては当然であり、データも開示している分、まだ誠意があると言える。十分な企業努力をしているとは思いうし、利用者が減っているのにサービスを手厚くしろと、要求だけ出すのは検討違いである。ただし、その程度を誤ると、そのしわ寄せは現場に来る。実際に無人駅やワンマン列車が増えることによって、例えば不正乗車の増加が懸念される。利用者が減れば少しでも機会損失を防ごうと、現場乗務員は改札業務を頑張るだろう。時には語気が強くなってお客様とトラブルになることも全くないわけではない。もちろん、接客業であるから、お客様に対して怒りの感情をぶつ

けるのは間違いであるが、これはあるべき姿なのだろうか。経営と現場の意識がどんどん解離していったくないか、という懸念がついて回る。



■3 つ目は車掌の廃止進展である。JR九州では秋のダイヤ改正で、長崎、熊本、鹿児島エリアで車掌を廃止する計画で、さらなる合理化を進めることとしている。恐らく長期的に人材を確保することの難しさや、技術の進歩によって対応可能との判断だと思われるが 6 両編成など比較的長い車両でも、ワンマン列車が拡大されるとのこと。有事の避難誘導などは問題ないのか、不正乗車がさらに横行しないかなど懸念が残る。驚くことに特急列車でも明らかに機械と分かる自動音声に切り替わっており、ネット予約への推進も相まって、近いうちには特急列車もワンマン化が進むのではないかと考えられる。果たしてこれで、本当に安心して鉄道の旅が楽しめるのだろうか。今回の九州旅では楽しさより、厳しい経営状況からくる心配事の方に思いを巡らせることとなった。

■減便や合理化といった引き算の仕事は始まりだすと止まらない。もちろん、影響を最小限にするという意味では、担当者の創意工夫が発揮されるだろうが、お世辞にも前向きな話ではない。誤解を恐れずに申し上げると、今後必要になるのはメリハリのつけた対応ではないかと考える。コロナ禍で鉄道各社は莫大な赤字を計上しており、収束後も以前のような環境に戻らないという極めて不利な状況に立たされている。その中でなすべきは合理化を図る一方で、黒字を出せる路線についてはしっかり収益の出せるものに育て上げることである。現在のダイヤ改正では黒字路線も含めて、なし崩し的に減便を繰り返しており、これまで便利であった路線や利益が出ていた路線も利用者離れを加速させてしまうことになりかねない。

■これは何も九州だけでなく全国各地で起こっている事実である。しばらくバスや電車に乗っていないなと気づいたのであれば、一度最寄りのバス停や駅の時刻表を見て欲しい。恐らく、自分が知っていた頃から相当減っているはずだ。もし、そこに気が付くことが出来たらまだ取り返せる。手遅れになる前に口もお金も手足も出して、みんなで地域の将来を考えよう。

NPO 法人公共の交通ラクダ(RACDA)

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内 1-1-15 禁酒会館 3F TEL&FAX 086-232-5502

E-mail: info@racda-okayama.org

URL: <http://www.racda-okayama.org>

RACDA

検索

